

# 水稲早生品種「あきさかり」の普及推進

## ■ 管内水稲栽培農家 ■

(東讃農業改良普及センター ○高八 弘, 岡田 彰夫, 吉田 有梨花)

### ●対象の概要

大川地域の平成30年産水稲作付面積は2,004ha、その内コシヒカリは1,545haで、地域の水稲作付面積の約80%を占めている。また、田植え時期も5月の連休に集中しており、この状況は香川県にコシヒカリが導入された昭和52年から変わっておらず「大川地域のコメと言えばコシヒカリ！」が鉄板となっている。

表1 大川地区の水稲作付面積と品種構成割合

(単位:ha,%)

	コシヒカリ	ヒノヒカリ	おいでまい	あきさかり	その他	合計
平成16年産	2,070 (82.5)	272 (10.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	166 (6.6)	2,508 (100.0)
平成30年産	1,624 (81.0)	242 (12.1)	16 (0.8)	30 (1.5)	93 (4.6)	2,004 (100.0)

### ●課題を取り上げた理由

これまでは、夏期の高温や台風等の異常気象に対応するため栽培方法を改善して「コシヒカリ」の品質・収量の確保を図ってきたが、それも限界に達しており、水稲栽培農家の経営の不安定化と生産意欲の減退が問題となってきた。また、品種構成が「コシヒカリ」1品種に集中しているため、育苗施設やカントリーの負担が大きく、老朽化した施設では運営が難しくなっている。

この状況を抜本的に解決するため、「コシヒカリ」に替わる新しい品種の導入・普及が望まれていた。

### ●普及活動の経過

#### 1 新品種の導入

「あきさかり」は、福井県農業試験場で育成され2008年に品種登録された早生品種であり、コシヒカリと比較して①高温耐性、②短稈、③穂数多等の優位性が確認されている。また、西讃地域でも、前年から試験栽培されており、まずまずの好結果を上げていることから、関係機関と検討した結果試験栽培に取り組むこととなった。

#### 2 試験ほ等の設置

2017年度から試験栽培に取り組み、2017年は12経営体が7ha、2018年は27経営体が30haで取り組んだ。試験栽培では、全ての生産者の協力を得て、土壌診断から、生育状況、収量・品質調査を行った。また、地域の稲作農家へ①「あきさかり」に関心を持ってもらうこと、②品種特性を理解してもらうことを目的として、全ての実証ほに「看板」を設置した。



写真-1 実証ほの巡回調査

#### 3 栽培技術の普及・支援

長年「コシヒカリ」の栽培を行った生産者に「あきさかり」を理解してもらうために、「あきさかり」の特性に合った栽培技術の習得を目標に、講習会や現場巡回を行った。また、「品質・収量コンクール」を開催し、生産意欲の向上を図った。



写真-2 栽培講習会の様子

#### 4 作付け拡大に向けた取組

平成31年産の作付け拡大を図るため、11月上旬に大川地域6か所で「あきさかり品種説明会」を開催し、延べ368名の水稲生産者が参加した。また、2月1日に「東讃地域のお米を考える会」(参加者144名)を開催し、「あきさかりの特性と栽培管理のポイント」の説明を行った。

加えて、1月に水稲作付け周知会(大川地域延べ参加者1,306名)を開催し、実証ほの成績や栽培しおりに用いて説明を行い、作付け拡大に弾みをつけた。

また、「あきさかり」という品種を広く知ってもらうため、精米サンプル「オコメール」を作成し、説明会等で配布した。



写真-3 「東讃地域のお米を考える会」での説明



写真-4 配布した「オコメール」

#### 5 その他

東讃地域での「あきさかり」普及推進にあたり、先行して取り組んでいる西讃農業改良普及センターとも情報交換や現地交流会を開催するとともに、JAのほか地元のコメ卸業者「くりや株式会社」とも連携し、流通・販売面についても検討を行った。

### ●普及活動の成果

#### 1 試験栽培で品質・収量が好成績

2017年、2018年の栽培では、①短期栽培において現地適応性が高く、品質・収量とも優れている、②中干しや収穫前の早期落水など水ストレスに弱い、③紋枯れ病に注意が必要などの特性を確認できた。

#### 2 栽培しおりの作成と専用肥料の開発

試験栽培の結果をもとに、「あきさかり栽培のしおり」を作成するとともに、あきさかりの品種特性に特化した専用ワンショット肥料「あきさかり一発」を開発し、次年度以降の一般栽培に向けた準備を整えた。

#### 3 生産体制の整備

短期栽培を推進したことから、育苗センターからの苗の供給やカントリー施設での受け入れが可能となり、普及に弾みをつけることができた。

#### 4 2019年産の作付け目標の設定

品種説明会や水稲作付け周知会等により、「あきさかり」が管内に広く周知され、2019年の栽培面積は約200ha近くとなることとなった。

### ●今後の普及活動の課題

今後、試験栽培から一般栽培に移行することから、生産者間に収量・品質に大きな差が発生することが予見できる。このような生産者間の差を抑え、均質化を実現するため講習会や巡回指導を行う必要がある。そのため、より関係機関との連携を強化して効率的かつ効果的な推進を行うこととしている。

また、他の普及センターとも情報交換・共有を密にして中生品種の「おいでまい」と合わせて「コシヒカリ」や「はえぬぎ」に替わる香川県的主力早生水稲として、早期の定着めざして普及活動を行う。



写真-5 平成30年産あきさかり成熟風景